

日本蘭亭会だより

第20回日本蘭亭書法交流東京展



会場の受付



美術の殿堂 上野の「東京都美術館」



会場には連日多くの方にお越しいただいた



石川芳雲会長の2x8作品を中央に役員の作品が並ぶ



石川芳雲会長による席上揮毫と揮毫した作品の解説の様子



日本蘭亭会は、今年二十周年の節目の年を迎えました。それを記念し、七月三日から七日の会期で、「第二十回日本蘭亭書法交流東京展」を開催いたしました。東京都美術館を会場とした出展数三四二点（日本二一九点、香港四一点、台湾三九点、中国四三三点）にのぼる大規模な展覧会となりました。

初日の内覧会と会期五日間の来場者数の総計は一二〇〇名に達しました。出品者やその関係者のみならず、多くのお客様に作品を鑑賞いただく機会となりました。日本蘭亭会の主旨でもある、会派を越えた作品や作風が多様さには来場者の皆様からも見応えがあるとお声を多くいただきました。会場の立地の良さも手伝い、外国人観光客の姿も目立ちました。書を通して日本文化に触れ、鑑賞を楽しむ様子が見られました。

七月六日の土曜日には会場にて石川芳雲会長、田中房州副会長、渡部大語監事による席上揮毫やギャラリートークが行われ、楽しみに来られた来場者様たちにより更なる賑わいを見せておりました。

祝賀会は七月二日、上野精養軒本店にて行われました。第十四回展での共催団体である台湾の中華民国書法教育学会の二二名と第十六回展での共催団体である香港書法芸術研究会の二〇名がこの日にあわせて来日され、参加いただきました。記念展の祝賀会にふさわしく、総勢二〇七名の華やかな祝宴となりました。祝宴に先だつては功労賞の表彰式も行われ、日本蘭亭会の活動に貢献された三〇名に舞台で表彰状が授与されると、その功労を称え会場は大きな拍手に包まれました。

おかげさまで「第二十回日本蘭亭書法交流東京展」は大盛況のうちに幕を閉じることができました。本展の開催に際し、会員各位ならびに当会の趣旨にご賛同いただきました方々の支援に心より感謝申し上げます。